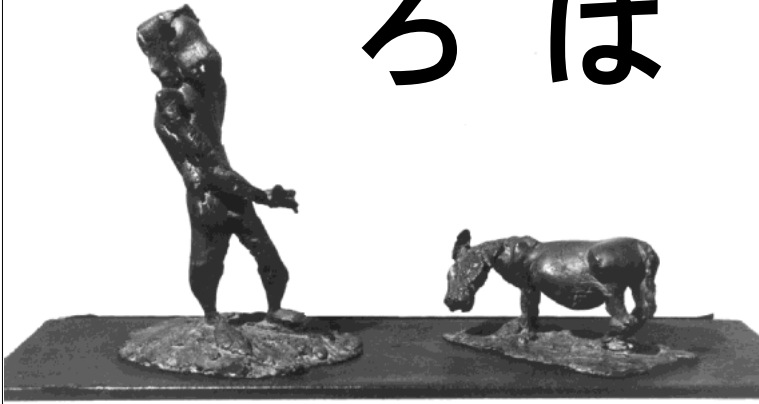


# ろば



## 百人町教会

集会案内

礼 拝：毎週日曜 午前10時半  
 於 東京家政専門学校2階  
 聖書研究会：第1・3水曜 午後7時  
 於 石原 宅

連絡先：〒162-0066 東京都新宿区  
 市谷台町14-1-701 賈 晶淳 方  
 TEL/FAX 03-3351-0807

<http://www.hyakunincho-church.com>

郵便振替口座：00180-8-565379



### 私の目線(七五)

詩に励まされ 癒されて、今

霜田 多恵

《絶望の虚妄なること まさに希望に相同じい》  
 ワタシの大好きな茨木のり子の作品の一つで、  
 『ある一行』という詩の主旋律です。

一九五〇年代／しきりに耳にし 目にし  
 身に沁みた ある一行  
 魯迅が引用して有名になった  
 ハンガリーの詩人の一行

(なのだそうです、詩人の名はペテーファイ・シ  
 ヤンドル(一八二二―四九) 訳は竹内好)こ  
 の一行への解釈が続きます。

絶望といい希望といってもたかが知れている  
 うつろなることでは二つとも同じ  
 そんなものに足をとられず／淡々と生きて  
 行け！／というふううに受けとって暗記した  
 のだった

と、この一行のこころを平易なことばで解い  
 てくれてます。どこか、聖書がワタシに語り  
 かけてくれるものと似ているように想えます。

くり返し読みながら、＼ちっぽけな、ホント  
 にちっぽけなワタシ＼が視えてしまい、哀し  
 みが溢れそうになります。でもそれと同時に、  
 励まされて、温かな明るい光を浴びながら安  
 らぐワタシも視えてきました。

この三年半、哀しみの淵にうずくまってい  
 て、暗記していたはずなのに想い出すことも

できなかつた、懐かしいことは・・・。  
 この詩は次のように締め括られます。

同じ訳者によって／《絶望は虚妄だ 希望  
 がそうであるように！》／というわかりや  
 すいのもある／今この深い言葉が一番必要  
 なときに／誰も口の端にのせないし／思い  
 出しもしない／私はときどき呟いてみる／  
 むかし暗記した古風な訳のほうで  
 《絶望の虚妄なること まさに希望に相同じい》

折々にこのことばを呟いている、これからの  
 ワタシが、今ようやく視えはじめました。

もう一つ、『詩は たぶん』という川崎洋  
 (茨木のり子と詩誌『權』を創刊)の作品を  
 お借りしましょう。

詩は たぶん／弱者の味方／ためらう心の  
 ささえ／ 屈折した思いの出口／不完全な  
 存在である人間に／やさしくうなずくもの  
 ／たぶん

そのものズバリ、詩をうたっていて、神さま  
 のようにやさしくて、癒されます。

茨木のり子はもちろんですが、川崎洋の作品  
 のどれも大好きなワタシは、折々に想い出し  
 ては、呟いてゆくでしょう。これからもつづ  
 く苦難の日々…。朝な夕なに祈り、讚美歌を  
 口ずさみながら。

## サマリアとガリラヤの間

## ルカによる福音書一七・一一―一九

賈 晶淳

本文の内容はイエスがガリラヤを離れ、エルサレムへ向かう途中に出会った出来事が記されています。そして一一節には福音書に出てくる多くの地名のうちエルサレムとガリラヤ、サマリア三つの地名が出ていますが、今日はこの地名を中心にお話をしたいと思います。教会史的意味においても大変重要な意味を持っています。この三つの場所はパレスチナにおけるキリスト教の原点であり、宗教改革五百年を迎えた現代の私たちの教会が歩むべき方向性についても示唆する内容を持っていると考えられます。具体的にエルサレムはイエスの受難と復活の場所でもありますが、原始キリスト教団の本部が置かれていた場所であり、弟子たちによる律法主義的でユダヤ人中心のキリスト教の拠点であったことは聖書を通して簡単に確認できます。しかし、それはAD七〇年のローマによるエルサレム破壊までのことであり、パウロの異邦人への宣教によって余り意味を持たない場所となつて行きます。

にもかかわらず現代キリスト教の多くの伝道者や神学者は相変わらずエルサレム教会を求めているのはどうしてでしょうか。パウロの異邦人への宣教以後私たちが忘れていた場所があります。イエスの生まれ育ち宣教を始めた民衆の町ガリラヤと差別の町サマリアです。

この二つの場所はエルサレムとは対照的な場所、もう一つのキリスト教の原点と思われる場所でもあります。今日はこの二つの場所、中でも更に劣等な場所であるサマリアをもう一度思い起こし、現代のキリスト教が学ばべきサマリアの原点の意味合いと方向性について、今日の本文と使徒言行録におけるサマリアと関連する幾つかの箇所をご紹介します。一緒に考えたいと思います。

先ず、福音書を読む時はその全てがエルサレム破壊後にまとめられた文書であることを前提とする必要があります。即ち、編集の目的が原始キリスト教会のエルサレム以後の宣教方向やその存続の意味を模索するためであったことの認識です。そうしますと福音書編集段階ではもう既にエルサレム教会は意味を持たなくなりました。代わって使徒言行録やパウロ書簡などを通して異邦人への宣教が中心となり、エルサレムと共にガリラヤやサマリアも消えて行くのです。いいえ。それは違います。実際にはパウロの宣教が余りにも大きくてその陰に隠れてしまっただけのことです。

ここでルカによる福音書の本文の内容と関連する箇所について考えてみたいと思います。先ほど、サマリアやガリラヤの町が差別の町、民衆の町として理解されていることを申し上げました。一二節以下ではイエスがこの二つの町の間を歩いていた時に重い皮膚病の人たち（以前の聖書ではらい病人）一人がイエスに憐れみを求め叫び、その声を聞いたイエス

は彼らを清めるために祭司の所に行かせますが、その途中全員が清くなり、そのうち一人がイエスの所に戻って来て感謝する場面が描かれています。その一人がサマリア人であったということです。このサマリア人を指して一八節ではイエスが「この外国人」といいますが、この言葉は彼が差別を受けている人であり、同時にらい病人であることで二重、三重の差別を受けていたことを意味します。しかし、イエスは彼らを癒し、救い、中でもこのサマリア人のみを褒められる存在として受け入れているのです。この本文はルカのオリジナル報告です。不思議にも私たちが覚えているサマリア人の記憶はルカに集中しています。マルコではこの地名は一回も登場しませんが、

「マタイでは一か所のみが出ていますが、イエスの十二弟子の派遣命令の箇所です。『異邦人の道に行つてはならない。また、サマリア人の町に入つてはならない。』という差別的な内容が書かれています。そうしますと私たちが持っているサマリア人に関する良き記憶はどこから得たものでしょうか。一つはヨハネによる福音書四章一節以下の「イエスとサマリアの女」に関する記憶であり、他の全てはルカによる福音書のオリジナル内容です。その中でも最も有名な「良いサマリア人」のたとえ話もルカによる福音書一〇章二五節以下に出てくるルカ独自の内容です。

ここでサマリア人が差別を受けるような歴史について簡単に説明しますと、イス

ラエルの統一王国がソロモンの死後南北に分断され、北はイスラエル王国、南はユダ王国に分かれます。南の首都はエルサレムで、北の首都はサマリアになります。その周辺地域もサマリアと呼ばれます。しかし、BC七二一年にアッシリア帝国によって北王国が滅びますが、その時のアッシリアの支配の政策として帝国内の各地から異民族をサマリアへ移住させ混血政策をとります（王下一七・二四一―四〇）。その後、南のユダもバビロニアに

占領され、捕囚の民として王を始め指導層の人々がバビロニアへ連れて行かれます。そして、ペルシア時代に捕囚が終り（BC五四八―五二二キユロス勅令）、捕囚からの帰還民によるエルサレムや神殿の再建が計画されますが、その時に当地に残っていたサマリア人から共働の申し入れがあります。これに対して監督官であったエズラやネヘミヤは穢れを理由にサマリア人の申し入れを断ります（エズラ四・二―五、ネヘミヤ二・一九）。その後サマリアの妨害などで計画通りに運ばれず、両者間の関係は悪化し、ユダヤ人から不浄な存在として最も嫌う地域や存在として差別を受けるようになります。ですからユダヤ人はサマリアを通ってもならないし、サマリア人と付き合うことも禁止されていました。

そうしますとルカはどうしてたとえ話や今日の本文のようにルカ独自の内容を通して、被差別民であるサマリア人を善良な人として紹介しているのでしょうか。私自身、長い間

このことが気になっていました。今日はやつとその答えに近づくことができるかも知れないと思いつながらこの証詞を準備しました。どうしてルカは当時の殆どのユダヤ人が敬遠し差別しているサマリアについてイエスがそれとは全く異なる態度を取っていることを紹介しているのでしょうか。

実はルカ自身は他の福音書の著者とは異なつて異邦人キリスト者でありました。特に、彼は原始キリスト教の中で異邦人への宣教に大きな関心を持っていたと考えられます。ルカはルカによる福音書のみではなく、使徒言行録の著者でもあります。使徒言行録は異邦人宣教の重要な報告書です。他の福音書の著者がユダヤ人であったことを考慮すれば、福音書の編集過程においてルカなりの方向性や他の福音書著者とは異なる独自のものを持つていたと考えられます。このことはパウロ書簡には一度も出てこないサマリアの地名がルカの著書である使徒言行録には多く出ている事実からも確認できます。しかもその内容を見ますと、普段私たちが考えて来なかつた事実（？）に気づくところがあります。それはサマリアへの宣教とそこから想像できる教会の原点としてのサマリア教会のことです。それらのうち幾つかの内容を紹介しますと、一章八節「あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる。」、

八章一節「サウロは、ステファノの殺害に賛成していた。その日、エルサレムの教会に対して大迫害が起こり、使徒たちのほかは皆、ユダヤとサマリアの地方に散つて行つた。」、八章五節「フィリポはサマリアの町に下つて、人々にキリストを宣べ伝えた。」、八章一四節「エルサレムにいた使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞き、ペトロとヨハネをそこへ行かせた。」、八章一五節「二人はサマリアに下つて行き、聖霊を受けるようにとその人々のために祈つた。」、八章

二五節「このように、ペトロとヨハネは、主の言葉を力強く証して語つた後、サマリアの多くの村で福音を告げ知らせ、エルサレムに帰つて行つた。」、九章三二節「こうして、教会はユダヤ、ガリラヤ、サマリアの全地方で平和を保ち、主を畏れ、聖霊の慰めを受け、基礎が固まつて発展し、信者の数が増えていった。」などです。このようにエルサレムの破壊の前から弟子たちはサマリアへ出入りしていました。サマリアはキリスト教における重要な原点になつていたので、もし私たちの教会が民衆の町ガリラヤと合わせ差別の町サマリアを自らの原点として覚えて行くことができたらきつと教会も変わっていくこととでしょう。ガリラヤとサマリアこそ異邦人の宣教、世界宣教を可能にさせた原点であり、今後も「サマリアとガリラヤの間」はキリスト教の求めるべき方向であり続けることとしよう。（二〇一七年一月一九日証詞より）

私たちが用意するものは？

マタイによる福音書二五・一―一三

ハンウリ教会牧師 朴 承烈

今は一月です。二〇一七年度を締めくくっていく時点です。教会暦でも一月には終末に関するみ言葉が割り当てられています。終末といえば思い浮かぶことは世の中が終わるということ、宇宙的な大災害が迫ってきて地球が破壊される日などを想像するようになります。多くの教会が「終末」を間違っただけで、まるで地球が消滅し破壊されると教え、誤解させます。神様は最後の時になれば悪い世が倒れるとおっしゃいます。しかし悪い世が倒れて終わるのではなく、新しい世の中、神の国が来るとおっしゃっています。終末論は怖がらせるものではありません。悪い世が終わって神の審判が下れば新しい国が来ます。今の世が終わる審判の時になることを恐れる人たちは誰でしょうか？現在悪い世を支配する者たちです。世の終わりは違う世の始まりであるということをおぼえておくべきです。終末は破壊と死ではなく新しい世と新しい生の始まりです。

昔ローマ帝国に遠征して勝利を収めて凱旋した将軍が素晴らしい市街行進をしたといいますが、市街行進をするとき奴隷に将軍の後ろから大声で叫ばせたといいます。『メモントモリ！』(Memento Mori)という言葉は「死を記憶しろ」という意味で、「戦争で勝利したとあまり偉そうに言うな！今日は凱旋将軍

だが、あなたもいつかは死ぬ。だから謙遜して行動せよ」と警告する意味でした。

私たちにもやはり「メモントモリ」という叫びが必要ですが、この言葉は権力者たちが必ず聞くべき言葉です。そして権力があつてなくむなく終わるもつとも代表的な事例がまさに朴権恵政権の末路です。

韓国では昨年一〇月最後の週から始められたろうそく革命で、国会に於いて朴権恵大統領を二三四対五六で弾劾決議し、憲法裁判所では八対〇裁判官全員一致で弾劾を決定しました。国民世論は八〇%が弾劾に賛成しました。弾劾後に新しく就任した大統領と政府は、過去の政権で起こった間違いを明らかにする努力をしています。大きく二つのことに深く関心を持って欲しいです。光州市民を虐殺したときに国家は何をしたかと、セウオル号沈没事件に国家はなぜ無力だったかを調査することです。光州では軍隊を動員して自分の国民を殺しました。それなのにセウオル号が沈没しているときには何もしないで自国民を殺害しました。全斗煥や朴権恵前大統領がメモントモリを知っていればあのような愚かな行動をすることはなかったでしょう。

セウオル号事故発生以後、韓国ではあらゆる種類の悪い噂がとびかいました。金がたくさんかかるから行方不明者を捜索するな。引き上げるな。全て終わったのだからもうこれ以上調査するな。親たちは大金をつかんだ。等々悪い噂が流れわたりました。国家情報院

と保守団体が世論操作をしたのです。自分たちの子供が死に直面しているのにそんな言葉を言うことが出来るのでしょうか？私たちは父母の心情で真相を明らかにし誰が調査を妨害したか最後まで探り出します。若い子供たちを悲劇的に送り出した父母たちは死ぬまで忘れられず涙の乾くことはないでしょう。

マタイによる福音書二五・一三で目を覚ましていなさいと言っています。この言葉は単に居眠りするな、二つの目を開けているという意味だけではないでしょうか？この言葉はグレゴリという言葉で、気をしっかり持つ、注意する、警戒するという意味です。花婿がいつ来るか分からないので、気をしっかり持ち、用意をちゃんとしていつでも迎えることができるようにいなさいということです。

今日の聖書の箇所は、イエスのみ言葉を土台に初代教会の状況を反映しています。花婿が来るということは既に予告されています。問題はいつ来るかということです。花婿がいつ来るか誰も知りません。ところが遅れています。これはイエスが昇天なさるときに又来ると約束なさったが、その再臨が延ばされていることを言っています。主の再臨が遅れれば初代教会の信者の中で問題を起こす場合も出て来ます。今日の一〇人の乙女のたとえの箇所は主の再臨が遅れている状況で、信徒たちはどう生きていくべきかという生の問題に応えようとする神学的悩みが込められている箇所だと言えます。

マタイ二四章と二五章で多くのたとえで終末論について教えています。たとえでいつも「その日とその時はだれもしらない」と繰り返し強調しています。何故でしょうか？終末について教えると人々はなぜ起こるのかという問題より、いつそれが起こるのかに関心を向けやすいです。主の時代でもやはり終末と言え「その時」にだけ関心を寄せました。そこで主はマタイ二四・三六で「しかしその日とその時は誰も知らない。天使たちも知らず、子も知らず、ただ父だけがご存じだ」と言い、今日読んだ二五・一三でも「だから目を覚ましていなさい。あなたがたはその日とその時を知らないのだから」と言いました。終末の教えで重要なことはいつ起こるかわけなく、どう用意すべきかということです。私の終末の時、私の命が明日終わるとすれば何をするか？二〇一五年調査によれば日本では平均寿命は八三・八歳、韓国は八二・二歳だと言います。平均寿命が八〇歳だとしてその時までは大体生きていき、八〇歳になって準備すれば出来るだろうと安易に考えやすいです。死を用意することには、死ぬとき着る洋服を用意して墓地を予約しておけば死の用意を全てしたことでしょうか？とところで、ちゃんと用意した見事な死に装束を着て主の前に行ったときどんなことが起こるのでしょうか？主はなんとおっしゃいますか？「きれいな服ですわね」「若く見えますよ」そうはおっしゃらないでしょう。私たちは花婿を迎える乙女

たちのように油を用意していなければなりません。用意しないであわてれば天の国の祝宴に入ることは出来ないとおっしゃいます。終末の時、審判の時、「その時」があるということとはみんな知っています。しかし「その時」がいつであるかは知りません。それでも終末の時のために用意する人がいて、全く用意しない人もいます。私たちは終末のために何を用意していますか？終末の時のために用意しなければならぬことは何でしょうか？アモス書五章一節でイスラエルの家よ、この言葉を聞け。わたしが前たちについてうたう悲しみの歌をつまりアモス預言者が、神の民を自任する人たちが滅亡する時を考えながらうたう悲しみの歌です。預言者アモスは滅亡と怒りの審判に遭う前にあらかじめ悔い改め立ち返ることを促しています。とくに一八節―二〇節です。災いだ！主の日を待ち望む者は。主の日はお前たちにとつて何か。それは闇であつて光ではない。人が獅子の前から逃れても熊に会い、家にたどりついても壁によりかかると、その手を蛇にかまれるようなものだ。主の日は闇であつて光ではない。暗闇であつて輝きではない。そして二一節以下でその暗闇の審判から逃れる道を提示しています。二一節―二三節に見るように宗教的儀礼ではその審判から逃れられないのです。礼拝、供え物、つまり献金、賛美など宗教的形式は必要ではないというこ

とです。それでは何が必要でしょうか？正義を洪水のように恵みの業を大河のように尽きることなく流れさせよ。形式的礼拝と偶像崇拜は、神の審判即ち終末の時に何の役にも立たず、むしろそれが負担になるという警告です。私たちが神の前に立つとき、神の国が突然臨んでくるときに、私たちは何を留意したと申しあげられるでしょうか？私たちは油を既に用意した賢い乙女のように生きていきましよう。花婿が来る喜びの瞬間を迎える用意をしてお待ちしましよう。神様は何を喜ばれるでしょうか？神様が喜ばれるそのことを今行いながら生きていきましよう。苦しんでいる人たちを見ればともに苦しみ彼らのために祈ることです。愛を分かち合うことです。お互い愛し合う世を造るといふことはいま愛し合うということですよ。愛する世は愛を通して成し遂げられます。平和の世は平和を通して成し遂げられます。いま私たちが生きている悪い世、力と暴力で造られた世は消えて愛と正義と平和の世、神の国が近づいています。近づいている神の国を望みつつ用意しながら生きていくことを祈ります。油を用意した五人の乙女のように信仰で耐え待ちましよう。神様が造られた正義の世、平和な世、愛の世は必ず来させましよう。愛に満ちた神の恵みがいつも一緒にあることを祈願します。

(一一月一二日証詞 翻訳・文責小池恵子)

## 出身教職だより

## 取手幼稚園のこのごろ

小林 祥人

百人町教会を離れたのが二〇〇七年の三月だったから、もう十年か、と思う。人の一生なんて、八十年か九十年かそこらだから、十年って、けっこうな年月が流れたんだなって…あ、こういうノスタルジックな話は『ろば』にはふさわしくないから、もう少し別の話題を、ということだ。

幼稚園という施設にいますと、やはりどうしても子どもの育ちといったことを考える毎日だ。牧師になる気満々で取手の地に来た割には、仕事の半分以上が、園長・理事長という働きだったけれど、そういう置かれた場所で、宣教の課題というか、自分自身の課題を考えてみると、やはり子どもたちのことかなあ、となる。

茨城県取手市は、最近別なことで全国に名前が知れ渡ってしまった。女子中学生が「いじめ」を苦にして自死した事件について、「いじめはなかった」とする市の調査委員会報告に両親がたいへん心を傷つけられてしまった。あのようなことはさまざまところで起こりうると思うし、行政の隠蔽体質みたいなものが言われていて、それも深刻なことだと思われるけれど、私たちにとって他人事ではすまされないな、と思ったのは、いじめた側も、いじめられた側も、数年前には市内のどこかの幼稚園か保育所に通っていたらどうなっかって。

人の人格が形成されるのに最も重要な時期は三歳から五歳までといわれる中で、私たちの責任はやっぱ重い。しかしこっちはそう思っていないながらも、いまだきの保護者達に人気がある幼稚園や子ども園は、あまり人の心を育てるのでなくして、習い事を詰め込む傾向が強くなっていく。人が豊かな心をもって力強く生きていく、ということは、身体能力が高いこととか、知識があるということとは別なことだと、無論そういう勉強や修行が人生のどこかで求められてくるということがあったとしても、それが果たして三歳〜五歳の子どもにほかの何物にも優先して必要なのかな、誰でも知っていることのはずなのに、と思う。

育てられるべきときに育てられなかった「かわらっほの心」の中にどんな恐ろしいことが忍び込む危険性があるか、もうずいぶん前の話になるけど、オウム真理教がおこした騒ぎに超高学歴の人も多かったことなんかを見れば、すぐ想像がつくと思う。賈さんや、空閑さんや、北さんや、金井さんが大学でやってる授業に、私が出席させてくださいと頼めば、聴講生にはなれると思う。時間と、少しのお金があれば。でも、皆さんが私のところへ来て、「幼稚園児をも一回やり直したいから、園児として入れてください。お金はいくらでも払います」といわれても困る。幼稚園で過ごす時期というのはそうしたものだ。二度とやり直しのきかない中で、「勉強」とか「学習」で

はない、人が育っていくための「学び」ってどんなことかな、といつも考えながら業務にあたっている。

クリスマスは近づいている。聖誕劇のシナリオを今日から書き始める（その年の園児たちの個性に合わせて毎年書き直す）。「主役はマリア。マリア以外は全部つまらない役。どうしてもマリアをうちの子に！」って保護者…そしてお姫様風の衣装が用意されて…初めて取手に来た時、そんな感じだった。こんなこと一つ変えるのに十年かかった。今日、朝の礼拝で園児たちに話した。「クリスマス・ページェントに出てくる人たちは、マリアも、ヨセフも、宿屋も、羊飼いや、博士も、天使も、お星さまも、みんな大事な人たちです。それは、みんなが女の子だったり男の子だったり、小さかったり大きかったり、背の高さや顔も違うけど、大事じゃない人が一人もいないのと同じです。大事な一人ひとりがみんなそれぞれがんばって、赤ちゃんイエス様が無事に大きくなれるように守った、それがクリスマスのお話ですよ。」…後で一人の園児が「ボク、ホントは博士やりたかったけど、羊飼いやつてもいいヨ。でも、ジョーケンがあるんだ」「ん、どんな条件かな?」「あつ、あの光は何だ? ウワーツ、ま、まぶしいいー!」って言っているんだ。羊飼いやつたら羊飼いやる…神の栄光が現れました。

（取手教会牧師・取手幼稚園長）

## 韓国大邱訪問記（十月二十八日～三十一日）

新谷 照子

日本に留学中、百人町教会で礼拝を共にした金明洙さんの嬉しい誘いに男性二名、女性六名が飛びつき、金明洙・崔恵英さんご夫妻を訪ねて韓国第五の都市、大邱に向かいました。大邱や慶州は快晴で、美しい紅葉を観賞し、初めて食べる韓国料理に舌鼓を打ち、素敵な韓国の人達に出会うことができた素晴らしい四日間でした。

一日目・・・大邱空港に迎えに来て下さった明洙・恵英さんご夫妻と再会を喜んだ後、明洙さん運転のレンタカーでホテルへ。荷物を置いた後、金さんの家の近くのおしゃれなカフェに行きました。韓国の大学で建築学を教えている日本人教授の「韓国と日本の建築の比較」という講演を聞きました。参加者は日本に留学したことのある大学の先生が多いようでした。そのカフェには多種多様な韓国と日本の本が並べられていて、韓国と日本の交流の場になっているようでした。夕食は自宅で恵英さん手作りの心のこもった韓国料理を御馳走になりました。カフェで出会った明洙さんの研究仲間も一緒に楽しいひとときを持つことができました。ソウルから駆けつけてくれた一人息子の東赫君と再会することもできました。すっかり素敵な青年に成長し、学業にもサツカーにも精を出し、美しい彼女もできて青春真っ盛りの東赫君の話におばさん達はうっとりでした。

二日目・・・日本では知られていない韓国と日本を繋ぐ架け橋となった日本人を知ることができた貴重な日となりました。明洙さん運転のレンタカーで韓日友好館に行きました。道中、郊外に行くに連れて広がるのどかな田園風景は日本の風景に似ていました。韓日友好館は文祿の役の際に、加藤清正の配下として朝鮮に出兵したものの、投降して朝鮮軍に加わり火縄銃の技術を教えて、日本軍と戦ったとされる沙也可將軍を記念して建てられた施設です。三千人の兵を率いて投降したなど、今も真偽の程は分かっていないようですが、韓国では金忠善の名で英雄扱いされているそうです。全くその存在を知りませんでした。司馬遼太郎が紹介し、何冊かの本にもなっているようなので、是非、読んでみたいと思いました。昼食の後は、水崎林太郎の墓に行きました。一九一五年に大邱に渡った林太郎は干ばつや洪水に苦しむ農民の姿を見て、治水事業に取り組むことを決意し、十年もの歳月と多大な苦難を乗り越えて寿城貯水池を完成させました。彼の作った農園では韓国人と日本人がとも仲良く働いていたそうです。貯水池のお陰で荒野は美田に生まれ変わり、今は大邱を代表する市民の憩いの場になっているそうです。その後、明洙さんと恵英さんが通われている西門路教会の音楽礼拝に出席しました。特別に大きな教会ではないようですが、三階建てで、地下には広い食堂があり、日本の教会との違いを感じました。音楽礼拝

には恵英さんが出演し、美しい歌声を聞かせて下さいました。私達のことも紹介され、礼拝後にはたくさんの方々から歓迎の言葉を頂き、握手を求められました。

三日目・・・私たちの希望で明洙さんの勤務している啓明大学に早朝行きました。韓ドラのロケ地にもなっている美しい大学で礼拝堂を見学し、大学のカフェで朝食を頂きました。その後、新羅の古都、世界遺産の慶州へ。紅葉の美しい慶州五陵、東宮と月池を散策しました。午後には六つの国宝を有する仏国寺、その後夕焼けに照らされる石窟庵に案内してもらいました。特に石窟庵は仏国寺からさらに山に登っていった所であり、白い仏像の顔が優しい表情で感動しました。

四日目・・・九時から大学の講義がある明洙・恵英さんご夫妻に六時に空港まで送って頂き、帰途に着きました。

何から何までお二人にお世話になりましたが、観光ツアーでは行けない韓国を知ることができ、お二人との繋がりを強く感じた嬉しい旅となりました。



仏国寺にて

## 著者訪問

『国のために死ぬのはすばらしい?』の著者ダニー・ネフセタイさんを訪ねて

高島紗綾さんにこの本を紹介され(「ろば」二一三号参照)、九月の家庭集会で読み、「ダニーさんに会ってみたい」ということになり、家庭集会遠足でダニーさん宅を訪ねることを決定。

一月一七日秋晴れ。賈先生の車で、新宿から二時間、山あいを走ったところに小さな看板「ナガリ家」を見つけた。急な斜面をちよつと登ると、ダニーさん夫妻が一年半かけて作ったログハウスが堂々と建っていた。休日には若者が大勢来て手伝ったという。「重機類は使わず全部人の手で作ったんです。電気工事も水道関係もわたしたちで」「大きな丸太をどうやって上に上げたんですか?」などの質問にも身振り、手振りで丁寧に答えてくれた。手伝いに来た若者の重要メンバーが高島さんだった。アルバムには生き生きと働いている高島さんのはじけるような笑顔。

お庭でお昼。持参のお弁当、御夫人かほるさん特製のスープに副菜、イスラエルのお茶などが手作りのすてきなうつわに。とてもおいしかった。庭のいちようやモミジの紅葉の中での会話の弾むこと。「近くまでイノシシも来ます。」こんなしずかな、自然豊かなところで、手作りのログハウスでの生活はうらやましい。

別棟の木工所でダニーさんは家具を、かほ

るさんはペンダントなどの小物を作っている。ダニーさん夫妻の作品は素晴らしい。

東日本大震災を機に原発反対運動の先頭に立ち、勉強会、講演会のハードスケジュールをこなしている。私たちの訪れた日も、「これから大事な会があります」とおっしゃり名残り惜しいけどお別れした。

「ろば」での紹介が始まりで、家庭集会で読み、著者訪問となり、親しい交わりが持て、輪が広がっていく幸せ。なんと一月二六日にはダニーさんの証詞を聞くことになった。

当日、百人町教会にこやかなダニーさんがいらした。イスラエル出身のダニーさんが日本で家具職人になるまでの理由をお聞きし、戦争と核のない世界、人権が当然のように守られている世界を共に作っていききたいと思っ

た。(雨宮 道子)



ダニーさん・かほるさん(右から2人目)と共に

## ろばのせなか

待降節の蝋燭に三本目の灯がともる日曜日、「ろば」二一五号をお届けします。

\* 普天間基地に隣接する教会付属保育園の屋根に、米軍機の部品が落下した。子どもたちの遊んでいる園庭だったらと考えると、取手幼稚園の様子とも重なり身の毛がよだつ。沖縄島東村の牧草地、名護市沿岸での墜落を「不時着」と言いこました事故も記憶に新しい。強者の論理が、世界に満ち満ちている。

\* 「詩はたぶん弱者の味方」を引いて下さった霜田さんの目線、差別された町サマリアを覚えることから教会は変わっていかないと説かれた賈先生のことばに、強者の側には決して立てないはずの信仰を問われる。

\* 朴先生は、北支区とソウル老会の日韓宣教協議会参加のため来日された。一昨春秋、百人町からハンウリ教会をお訪ねした折には温かなお交わりをいただいた。花婿を迎える日のために、愛を分かち合いつつ備えたい。

\* 図書紹介はお休みし、訪問記を二つ。韓国大邱市の金明洙・崔恵英ご夫妻、ネフセタイご夫妻共に、美しい紅葉の中に歓待して下さり、それぞれのお仕事や運動の話を通じて、素晴らしい生き方を提案してくださった。感謝。朝鮮半島、中東などの深刻な問題解決のため祈り、愛をもって行動していきたいと思う。

(泉谷 五十鈴)